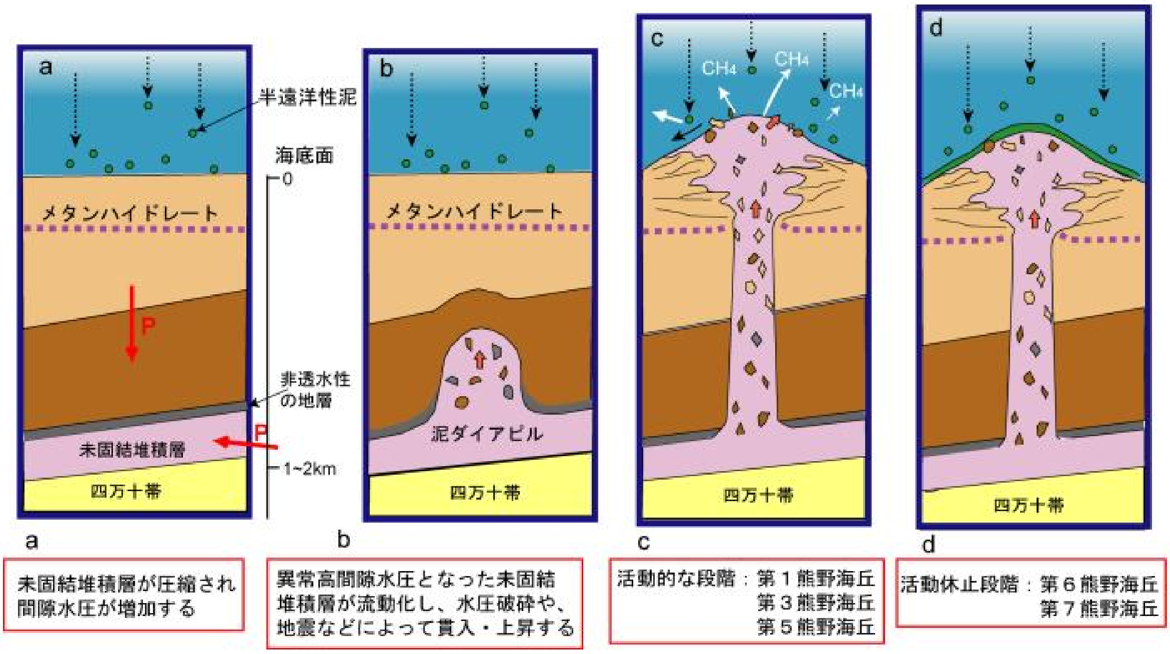
参考図

泥火山の構造（東京大学海洋研究所提供）



図中、最も下部の四万十帯（陸上では九州から四国、紀伊半島にかけて広く分布する地層）は遠洋で堆積した地層で、その上部には未固結の泥質物質が堆積（未固結堆積層）している（図中 a)。未固結の泥質物質が周囲の地層との圧力差や密度の逆転により上昇する泥質物質を泥ダイアピルといい（図中 b)、海底面上に噴出した山体を泥火山という（図中 c,d)。泥火山は南海トラフ沿いで数ヶ所発見されている。